講演会とシンポジウム

暮らしの安心・安全を守る地域医療を考える

●平成 26 年 1 月 19 日(日) /亀山市文化会館大ホール

ご挨拶　三重県知事　鈴木英敬

本日は、雪が降り積もるなか、たくさんの皆様と「暮らしの安心・安全を守る地域医療を考える」講演会とシンポジウムに参加できますことを心から感謝申し上げます。また、共催して頂く亀山市、亀山市総合環境研究センターの皆様にも感謝申し上げます。

皆様もご存知のとおり三重県全体は、医師や看護師などの医療従事者の数が非常に少なく、その確保に努めているなか、救急搬送件数がたくさん有るが、緊急度の低いすなわち軽症での救急搬送が多く見られる現象があります。ちなみに、平成２４年の救急搬送件数は、約８２０００件で平成１４年の約５７０００件に比べて、１０年間で約１．４倍になっています。

また、救急搬送件数のうち緊急度の低い人の利用の割合が全国平均の５０．４％に対し三重県では５６．１％であり、全国平均より高くなっています。こういう不適切な救急搬送の状況が続くと、限りある救急隊員や救急医療スタッフのなかで、緊急度の高い人の搬送に支障をきたし、救える命も救えなくなる現象が起りうると非常に心配し、危機感を持っています。そこで、昨年度から県では、行政や医療機関のみならず県民の皆様にも考えていただき、県民の皆様一人ひとりによる「みんなで守る三重の医療」啓発キャンペーンを進めています。。本日が、色々なことについて考える有意義な機会になることを願っています。

ご挨拶　亀山市長　櫻井義之

皆さんこんにちは。今日は朝から一面が真白な雪景色となりましたが、多くの皆様に参加いただき、心からお礼申し上げます。今日の講演会とシンポジウム「暮らしの安心・安全を守る地域医療を考える」は、知事をお招きして県との協働で開催させて頂きました。

皆様、ご案内のように亀山市総合環境研究センターには、環境、健康、文化をテーマに、亀山市民大学キラリを開催して頂きまして、三重大学の先生方には大変お世話になっています。また、亀山の地域医療学講座を開いている医療センターからは、亀山市の健康づくりの在り方等についてご指導を頂いています。３年目を迎え今までの研究成果や今後の課題について、竹村先生にお話しをして頂きます。今日の集いが、地域医療の在り方や健康について、皆さんのそれぞれの立場で考える意義ある機会になればと思っています。また、亀山市民大学キラリが、今後とも亀山市民と共に、この町のいろいろな課題を共有しながら前進することを願っています。本日は、どうぞよろしくお願いします。